

【藤巻の” さと” を育む会事務局からのお知らせとお願い】

8 月 28 日に下記のように名古屋市から藤森幹人氏をアドバイザーとして派遣していただき、「藤巻町のまちづくりをいま改めて話し合う会」を開催しました。

これは、主として第 2 次整備プログラムで大きくとりあげられている借地対応（オアシスの森事業）をとりいれて「まちづくり」に取り組む方策を主題としたものです。

その会合には、アドバイザー派遣元の「まちづくり企画課」の係長以下 3 名および眞弓浩二氏、高取千佳先生にも出席していただきました。

その結果を下記の当日の議事録でお知らせします。

この会議の結果を踏まえて、これからの藤巻町の「具体的な活動方針についての検討会」を早期に開催します。

できるかぎり皆様の出席しやすいよう、また具体的に問題点をはなしあえるように地域別に開催することも考えます。遅くとも 10 月中に開催し今後のスケジュールをとりまとめたいと考えています。

その「具体的な活動方針についての検討会」での主要な議題は下記

- ・喫緊の課題の解消に向けた皆様の考え方の議論 その具体的な進め方
（今回は具体案作成と財源問題の検討のワークショップ等にむけての相談。）
- ・喫緊の課題を体系的に進めるため、オアシスの森事業との組み合わせを考える戦略検討
- ・オアシスの森事業を藤巻町で早期に着手してもらうために藤巻町で取り組むべきこと
（その具体的スケジュールと参加者の募り方）

長期未整備公園緑地の新たなプログラムを受けて「借地対応オアシスの森事業」に対するアドバイザー派遣事業に適う進め方の相談会

日時：平成 30 年 8 月 28 日、午前 10 時 00 分～12 時 00 分

場所：藤巻町集会所

参加者：まちづくりアドバイザー：(株)対話計画 藤森 幹人氏 当日所用にて欠席

名古屋大学大学院環境学専攻 高取 千佳 助教

なごや生物多様性保存協議会会長 眞弓 浩二氏

まちづくり企画課： 清水 友浩主査、平松 翼氏、前川 誠太氏

藤巻町： 5 組 古川様、9 組 本井様、12 組 杉山様、15 組 宗様

（役員）服部会長、岡田副会長、黒澤副会長、山田会計監査、池田事務局長

会の趣旨：池田事務局長から説明の後、アドバイザーの藤森氏から、ボードを使って、簡単な話題の説明があった。その後、参加者の自己紹介を兼ねて一言ずつ

発言し（約 30 分） その後本題に入った。

本題・第 2 次整備プログラム発表後 残された課題

- ・ 藤巻町の「多くの地区が抱える住環境問題の解決方法は？」
- ・ 借地対応区域（住宅も含めて）の将来計画，長期的課題回避策は

第 2 次整備プログラム：今年度中に学区ごとに説明会行われると思われる。

- ・ 市当局は説明会后、具体的に第 2 次整備プログラム沿って行動する。
- ・ 道路整備：細街路（小さな道路）の整備を市は優先しないだろう。
：私道：住民が買い取って寄付すれば・・・という態度
- ：公園整備に連携してインフラ整備 ← オアシスの森事業
- ：長期未整備なのは予算が無い、それを補うため、オアシスの森事業で緑地公園的なものに取り組むことになった。その先駆者が眞弓先生：

オアシスの森の事例

- ：第 1 弾 32 相生山緑地（天白区）1998 年オープン
北部の 20 ha を整備、管理の仕組みの整備
- ：第 2 弾 29 猪高緑地（名東区）（藤森氏 関与）完了
- ：第 3 弾 15 細根公園（緑区）現在進行中
- ：第 4 弾 21 熊野公園（緑区）現在進行中
- ：第 5 弾 これから

オアシスの森事業には

- ・ 地主の協力 地域住民の協力 が欠かせない。
- ・ 森づくり・・・市民のボランティア（金をかけない）
- ・ 森の管理
- ・ 重要なのは 状況の継続・維持
相生山緑地：赤松再生、駐車場は土日のみ開く （眞弓氏関与）
案内看板、トイレ、散策路 のみの整備
猪高緑地：棚田復元・・・田んぼにいた生物の復元 （藤森氏関与）

借地対応地域で早期にオアシスの森事業対象地となるには

市民の関わる緑地公園事業例

- ・ 横浜 「新治（にいはる）の森」 水のある所（住民なし）
景観もよく、人にも住みやすい森
小さなお子さんを連れたお母さんたちが参加
- ・ 東山もりづくりの会 藤巻班もその一例といえる（今後の活用は 1 手段）
子供向け観察会を開催⇔オアシスの森事業につながる。

藤巻町側の事前準備としては

- ・地主との接触、土地所有のチェック
- ・喫緊の課題：まじめなワークショップ 新池のことを考える会
道路端、下水、市の土地でやれる問題
小幡緑地：木の道整備・・・資材のみ提供。施工は住民、ボランティア
- ・まち夢工事（名古屋都市センター）：今年度で終了

- ・今年度の取り組み（住民以外にも呼び掛けて）
 1. 森の手入れの体験： 11月～4月の冬期（この間で1～2回行えないか）
どこでやるか？ 地主（の許可）
（人それぞれの体力に応じた楽しく手入れする方法の講座を受けながら）
 2. 観察会（子どもも大人も老人も）
植物；希少種、どんぐり、きのこ
動物；昆虫
 3. 木こり体験
（人それぞれの体力に応じた木こりの方法を楽しく教わりながら）
 4. クラフト
 5. その他行事 例えば藤巻中を見て回る
食べる会：
 - ・野草の天ぷら・・・春
 - ・流しそうめん・・・夏
 - ・五平餅
- ・会の進め方の準備に対しての方が市からアドバイザーを派遣の狙いに適う

問題点：

- ・宣伝不足 もっと周りにアピール
- ・喫緊の課題：半永久な対策ではなく、とりあえず『5年もつ対策』を

相談する会議の終わりに；市役所の方々の感想：

「次につながる課題」も話題になってよかった。

この後市役所の方々は、服部会長、池田事務局長の案内で、藤巻町の「喫緊の課題」の箇所を中心に巡回された。

以上